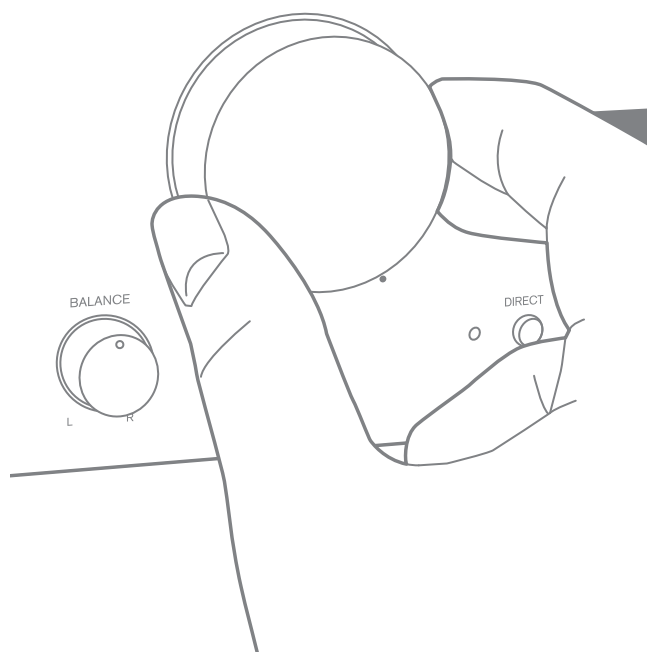


ONKYO

INTEGRATED AMPLIFIER

A-9110

取扱説明書



はじめに

2

準備する

9

基本の操作

15

その他

19

目次

はじめに

箱の中身を確認する	2
安全上のご注意	3
各部の名前	5
前面パネル	5
後面パネル	6
リモコン	7

準備する

接続	9
スピーカーを接続する	9
サブウーファーを接続する	10
再生機器を接続する (LINE IN 接続)	10
再生機器を接続する (レコードプレーヤーの接続)	11
RI 端子付きオンキヨー製品を接続する	11
電源コードを接続する	12
設定する	13
リモコンの準備	13
本機の電源を入れる	13
スピーカーインピーダンス設定	14

基本の操作

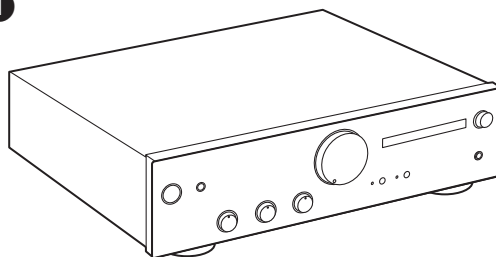
再生する	15
入力切替と音量調節	15
サブウーファーの出力設定	16
DIRECT 機能を使う	17
音質とバランスを調節する	17

その他

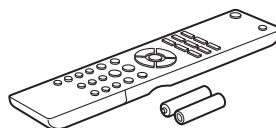
便利な機能	19
自動スタンバイを設定する	19
困ったときは	20
主な仕様	22

箱の中身を確認する

①



②



- 本体 (1)
 - リモコン (RC-968S) (1)、乾電池 (単4形、R03) (2)
 - 取扱説明書 (本書)
 - 保証書 (1)
- スピーカーはインピーダンスが $4\Omega \sim 16\Omega$ のものを接続してください。
 - 電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
 - 他社製品との接続により生じたいかなる損害に対しても、当社では責任を負いかねます。
 - 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの方え、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、本書をいつでも見られる所に保管してください。

この安全上のご注意、取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



警告

誤った使い方をすると、火災・感電などにより死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

誤った使い方をすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

警告

- 感電の危険を避けるために、カバーなどを取り外さないでください。修理を行う場合は、資格のあるサービス技術者に修理を依頼してください。また、通風孔やダクトなどから金属や燃えやすいもの、その他異物を挿入しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機は防水仕様ではありません。火災や感電の危険を避けるために、本機の内部に水が入ったり、濡れないようにご注意ください。本機の近くに液体が入った容器（花瓶など）を置いたり、雨や湿気にさらさないでください。また、風呂場や屋外の水辺などでは使用しないでください。
- 本機の上に火がついた口ウソクなどの裸火を置かないで下さい。火災の原因となります。
- 本機の使用環境温度範囲は 5 °C～ 35 °C、使用環境湿度は 85 % 以下（通風孔が妨げられていないこと）です。風通しの悪いところや湿度が高すぎる場所、直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 小さな部品はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師にご連絡ください。
- 電源ケーブルはプラグを持ってコンセントに抜き差ししてください。ケーブルを持って抜き差しすると断線などの危険性が生じます。また、濡れた状態で電源ケーブルに触れないでください。感電の原因になります。本機や家具などを電源ケーブルの上に置いたり挟んだりしないでください。電源ケーブルが傷ついた場合、火災や感電の原因となります。損傷した場合は修理を依頼してください。電源プラグの差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。
- 電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。定期的に電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

- 次のような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。煙が出ている、変なにおいや音がする。/ 本機を落としてしまった。/ 本機内部に水や金属が入ってしまった。また、万一内部に水や異物が入ったときや、本機を落としたりカバーが破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。
- 長期間音がひずんだ状態で使用しないでください。アンプなどの電気回路が発熱し、火災の原因となることがあります。また、長期間大きな音で使用しないでください。聴力が大きく損なわれる恐れがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。はじめから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。
- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。また、過熱や分解したり、火や水の中に入れてください。電池の破裂、液漏れにより危険です。電池から漏れ出た液にはさわらないでください。万一、液が目や口に入ったり皮膚についた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

- 強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置いたり、本機に乗ったりぶら下がったりしないでください。本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。また、本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本機を設置する際は、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときは、換気が十分であることを確認のうえ、本機の天面と側面には 20 cm、背面から 10 cm 以上のすきまを空けてください。また、本機の上の棚や背面のボードからは 10 cm 以上離して設置し、暖かい空気が逃げるための煙突のようなすきまをつくってください。すきまがないと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風孔が設けられている場合は、布などをかけたり、横倒しなどしないでください。通風孔がふさがれて、火災の原因となることがあります。
- 配線ケーブルに気をつけてください。配線された位置によっては、つまずいたり引っ掛けたりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。
- 製品の仕様によっては、電源スイッチなどを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグをコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグに容易に手が届くように設置してください。電源プラグを長期間差したままにすると、火災の原因となることがあります。

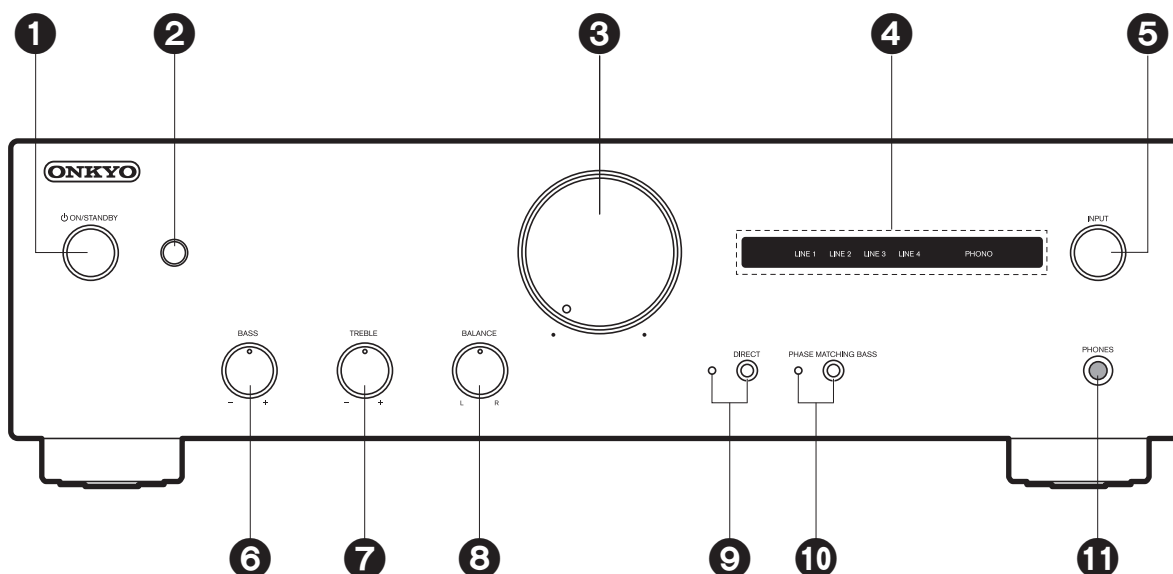
- 本機の電源ケーブルはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源ケーブルは本製品に付属のもの以外は使用しないで下さい。他の電源ケーブルを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。
- 雷が鳴り出したら本機、接続機器、電源プラグ、アンテナ、接続ケーブルなどに触れないでください。感電の原因となります。
- 本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。電源が入っているときや、電源を切ったあとしばらくは通風孔付近にご注意ください。
- 移動時は電源プラグや接続ケーブルをはずしてください。また、本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。落下や転倒してけがの原因になります。
- 電池は指定以外のものを使用しないでください。新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池を使い切ったときや長期間リモコンを使用しないときは電池を取り出すようにしてください。コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しないでください。

その他

- 音のエチケット：楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、プラス(+)マイナス(-)端子に絶縁テープを貼るなどして、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。
- 本機のお手入れについて：表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学そうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。
- 機器内部の点検について：お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

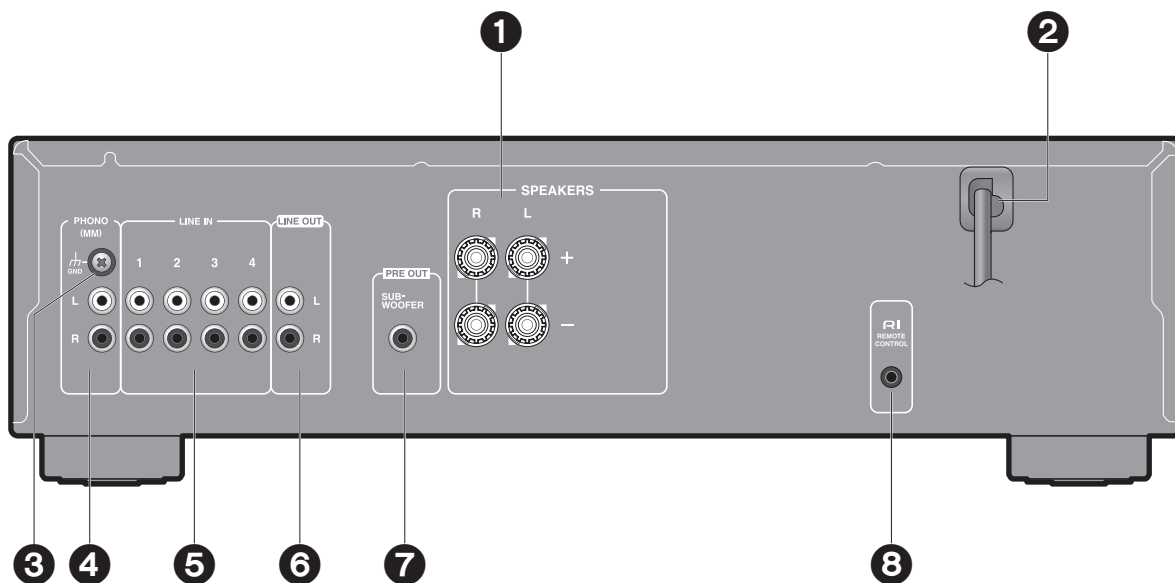
各部の名前

前面パネル



1. ⏻ ON/STANDBY ボタン
2. リモコン受光部：リモコンからの信号を受信します。
 - リモコンの受光範囲は距離が約 5 m、角度は上下 20°、左右 30° 以内です。
3. ボリュームつまみ
4. 入力ソースインジケータ：入力ソースの選択に応じてインジケータが点灯します。
 - MUTING (→p7) 中は、選択している入力ソースのインジケータが点滅します。
5. INPUT ダイアル：再生する入力ソースを切り換えます。
6. BASS +/- つまみ：低音域を強調したり、弱めたりします。(→p17)
7. TREBLE +/- つまみ：高音域を強調したり、弱めたりします。(→p17)
8. BALANCE L/R つまみ：左右の音声バランスを調節します。(→p18)
9. DIRECT ボタン/インジケータ：DIRECT 機能のオン/オフを切り換えます。DIRECT 機能がオンのときにインジケータが点灯します。(→p17)
10. PHASE MATCHING BASS ボタン/インジケータ：PHASE MATCHING BASS 機能のオン/オフを切り換えます。PHASE MATCHING BASS 機能がオンのときにインジケータが点灯します。(→p17)
11. PHONES 端子：標準プラグ (φ6.3 mm) のヘッドホンを接続します。

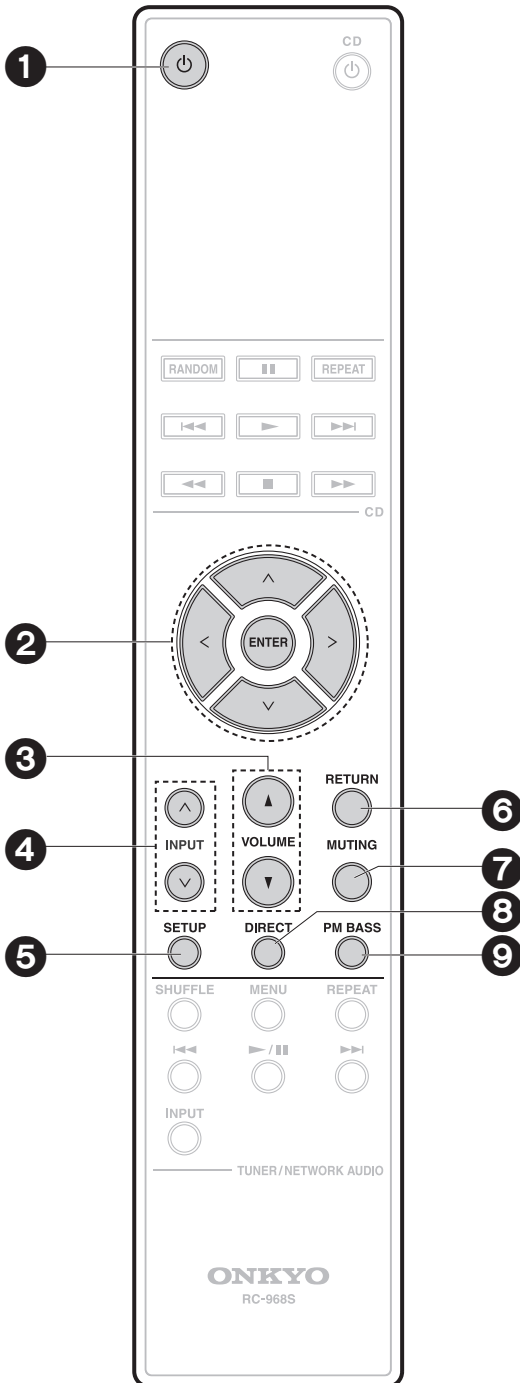
後面パネル



1. SPEAKERS 端子：スピーカーケーブルを使用して、スピーカーを接続します。(→p9)
 - ・バナナプラグに対応しています。直径が4mmのプラグをお使いください。
 - ・Yプラグの接続には対応していません。
2. 電源コード (→p12)
3. GND 端子：レコードプレーヤーのアース線を接続します。(→p11)
4. PHONO (MM) 端子：オーディオ用ピンケーブルを使用して、MM型のカートリッジを使用したレコードプレーヤーを接続します。(→p11)
5. LINE IN 端子：オーディオ用ピンケーブルを使用して、再生機器の音声信号を入力します。(→p10)
6. LINE OUT 端子：オーディオ用ピンケーブルを使用して、カセットテープデッキなどの録音機器へ音声信号を出力します。録音する入力ソースの選択は、本機のINPUTダイヤルまたはリモコンで行います。
7. SUBWOOFER PRE OUT 端子：サブウーファーケーブルを使用して、アンプ内蔵サブウーファーを接続します。(→p10)
8. RI REMOTE CONTROL 端子：RI (リモートインタラクティブ) 端子付きオンキヨー製CDプレーヤー、チューナー、ネットワークオーディオプレーヤー、RIドックと接続し、連動させる端子です。(→p11)

リモコン

本機を操作する

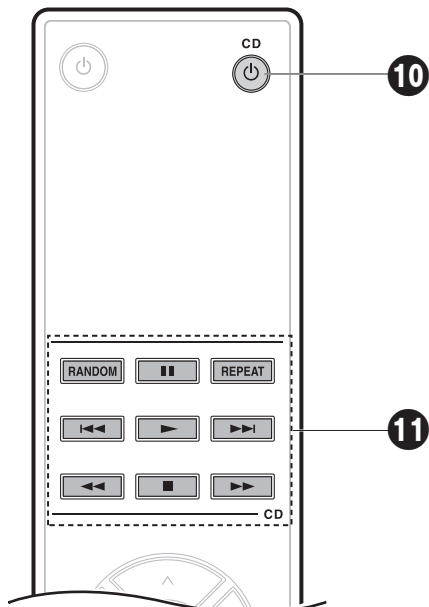


1. 電源オン/スタンバイを切り換えます。
2. カーソル (↑/↓/←/→)、ENTER ボタン：カーソルで項目を選び、ENTER で決定します。
3. VOLUME ボタン
4. INPUT (↑/↓) ボタン：再生する入力ソースを切り換えます。
5. SETUP ボタン：設定メニューに切り換えます。スピーカーのインピーダンス設定 (→p14) やサブウーファアの出力設定 (→p16)、自動スタンバイ設定 (→p19) を行います。
6. RETURN ボタン：設定中にひとつ前の表示 / 状態に戻ります。
7. MUTING ボタン：一時的に消音します。もう一度押すと消音状態を解除できます。
8. DIRECT ボタン：DIRECT 機能のオン / オフを切り換えます。(→p17)
9. PM BASS ボタン：PHASE MATCHING BASS 機能のオン / オフを切り換えます。(→p17)

他機器を操作する

本機のリモコンでオンキヨー製 CD プレーヤーやチューナー、ネットワークオーディオプレーヤー、RI ドックを操作することができます。

■ オンキヨー製 CD プレーヤーを操作する



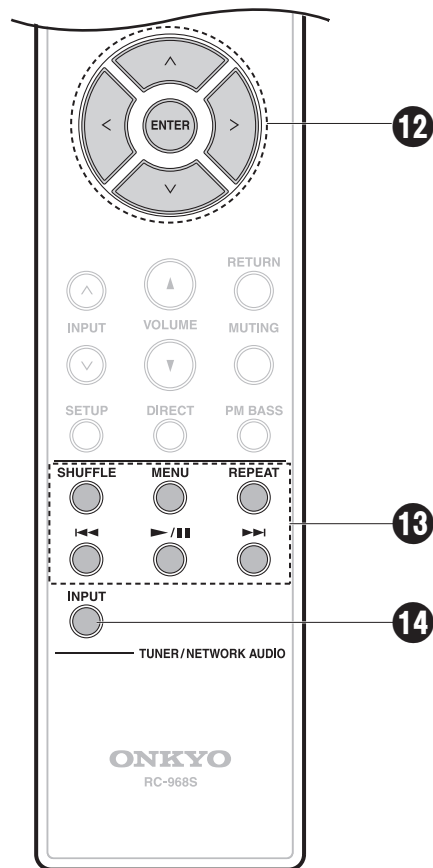
リモコンは CD プレーヤーのリモコン受光部に向けて操作してください。

10. CD 電源ボタン

11. 再生モードボタン

- ネットワーク CD プレーヤーをお持ちの場合は、RI ケーブルを接続すると (→p11)、RI 機能により 12 や 13 のボタンも使用できるようになります。これらのボタンを使用する場合は、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

■ オンキヨー製チューナーやネットワークオーディオプレーヤー、RI ドックを操作する



本機と各オーディオ機器を RI ケーブルで接続すると (→p11)、RI 機能により本機のリモコンで集中コントロールすることができます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

12. カーソル (▲/▼/◀/▶)、ENTER ボタン：カーソルで項目を選び、ENTER で決定します。

13. 再生モードボタン

- MENU ボタンはネットワークオーディオプレーヤーの場合は、設定中にひとつ前の表示 / 状態に戻ります。

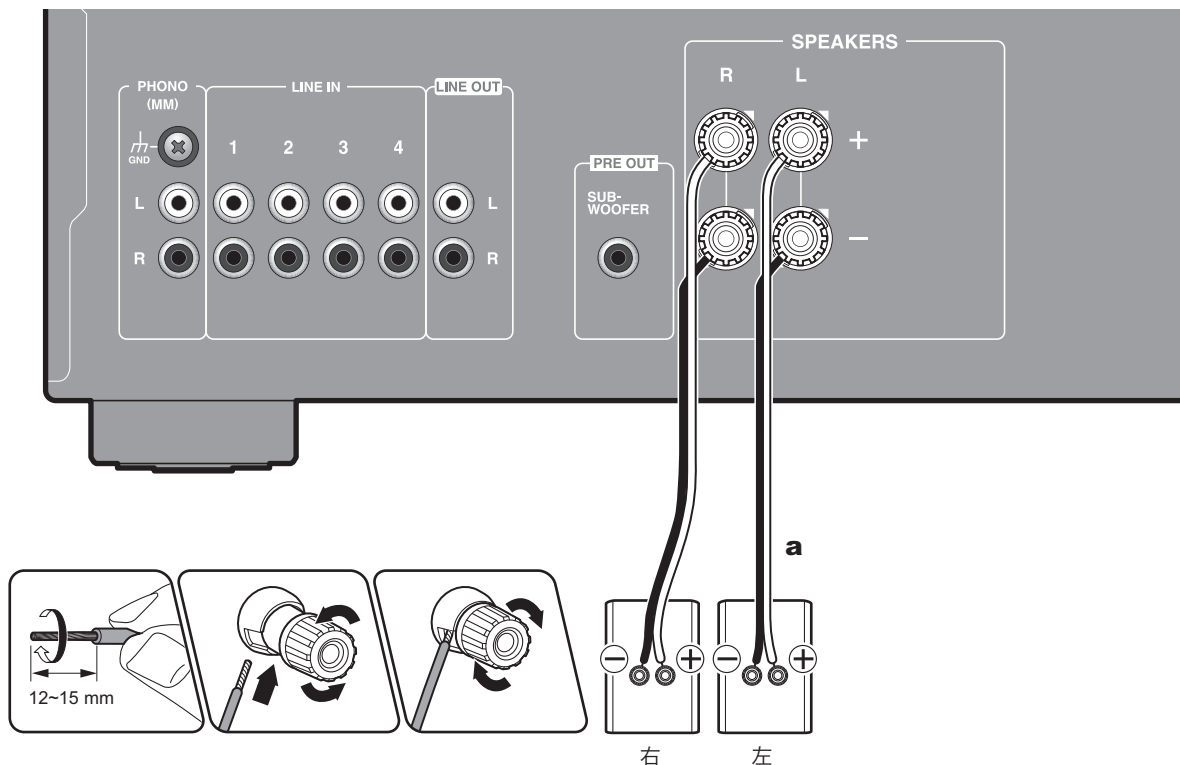
14. INPUT ボタン

- チューナーの場合は、BAND ボタンとして働きます。
- RI ドックでは INPUT ボタンは使用できません。

接続

スピーカーを接続する

a スピーカーケーブル



(ご注意) スピーカーインピーダンスについて

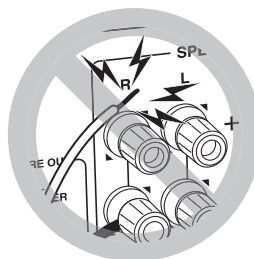
スピーカーはインピーダンスが $4\ \Omega \sim 16\ \Omega$ のものを接続してください。



設定が必要です：接続するスピーカーの中に $4\ \Omega$ 以上 $8\ \Omega$ 未満のスピーカーが1台でもあるときは、本機の設定変更が必要です。スピーカーインピーダンスの設定を $4\ \Omega$ にしてください。(→p14)

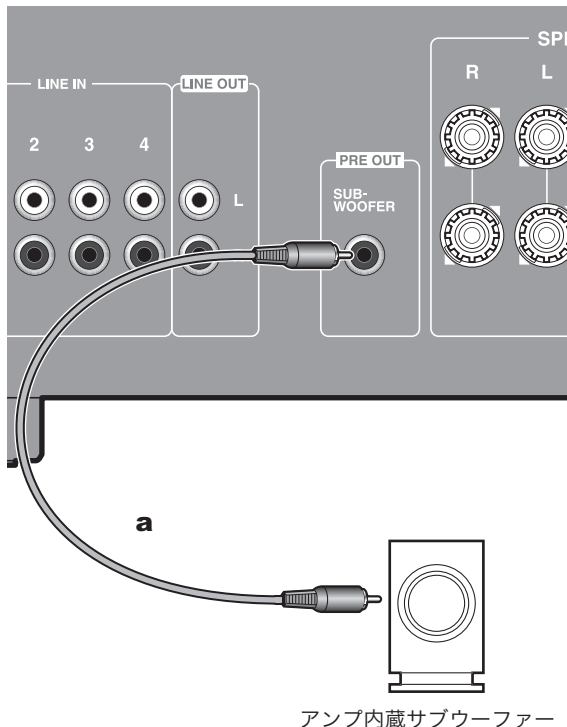
スピーカーケーブルを接続する

本機の端子の+側とスピーカーの+側とを、-側は-側とを、チャンネルごとに必ずあわせて接続してください。間違えて接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなります。スピーカーケーブル先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+側と-側とが接触すると保護回路が動作します。



サブウーファーを接続する

a サブウーファーケーブル



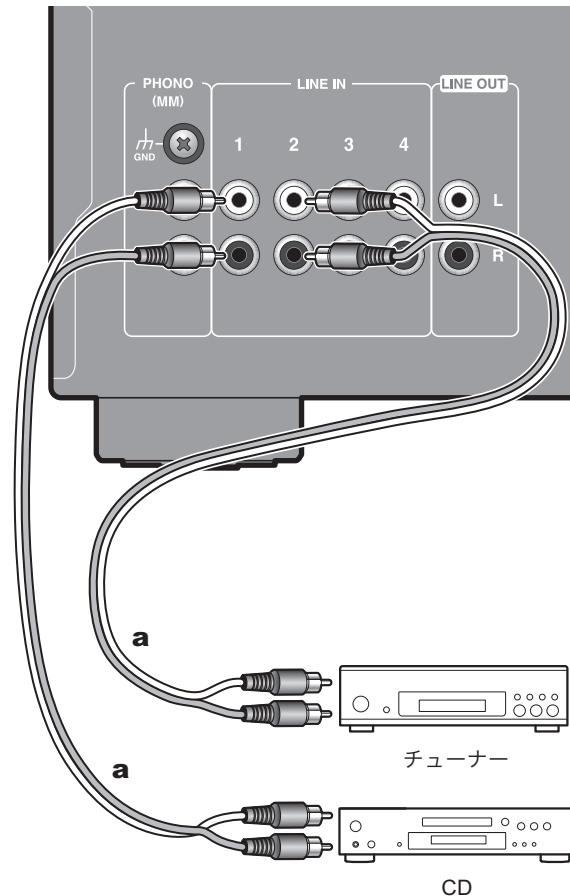
SUBWOOFER PRE OUT 端子にアンプ内蔵サブウーファーを接続して、低音域の再生能力をさらに増強することができます。接続の際は、サブウーファーケーブルを使用してください。

お好みに応じてサブウーファーの出力設定をオート/オン/オフに切り換えることができます。詳しくは「サブウーファーの出力設定」(→p16)をご参照ください。

- サブウーファーを使用しない場合は、オフに設定することをお勧めします。

再生機器を接続する (LINE IN 接続)

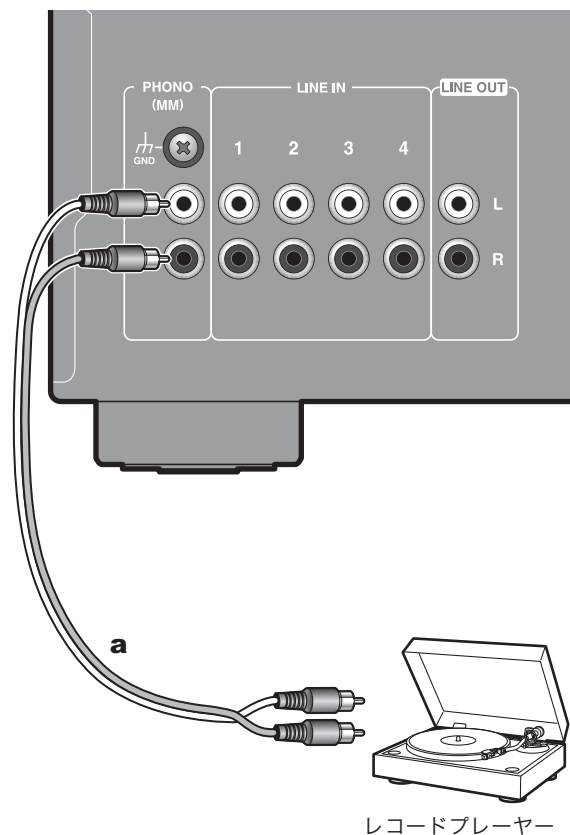
a オーディオ用ピンケーブル



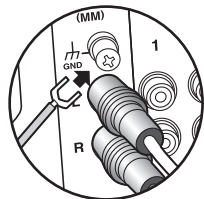
オーディオ用ピンケーブルを使用して、LINE IN 1/2/3/4 端子のいずれかに再生機器を接続します。RI 機能をお使いいただく場合は、「RI 端子付きオンキヨー製品を接続する」(→p11)をご参照ください。

再生機器を接続する (レコードプレーヤーの接続)

a オーディオ用ピンケーブル



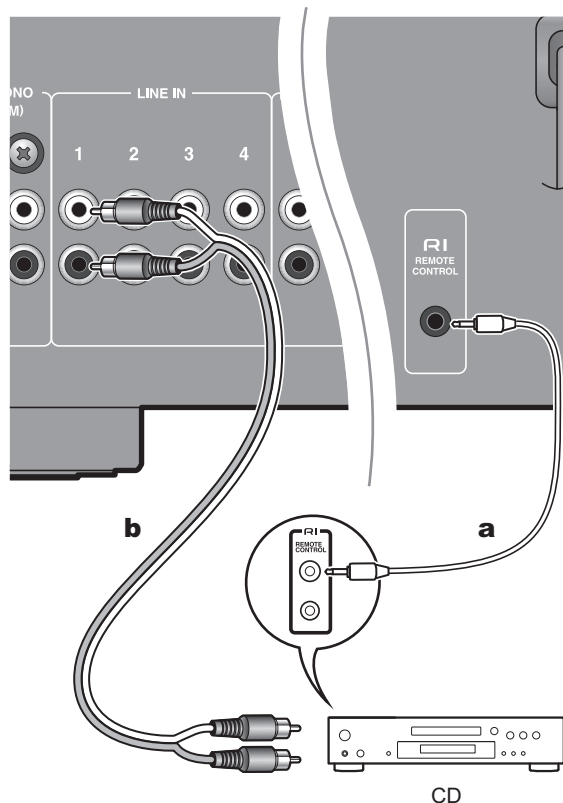
PHONO (MM) 端子には、オーディオ用ピンケーブルを使用して、MM 型のカートリッジを使用したレコードプレーヤーを接続することができます。レコードプレーヤーにアース線がある場合は、GND 端子に接続します。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなる場合があります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。



- レコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合は、PHONO (MM) 端子以外の LINE IN 端子のいずれかに接続します。また、MC 型カートリッジを使用したレコードプレーヤーの場合は、MC カートリッジ対応のフォノイコライザーを本機とレコードプレーヤーとの間に介して、PHONO (MM) 端子以外の LINE IN 端子のいずれかに接続します。

RI 端子付きオンキヨー製品を接続する

a RI ケーブル、b オーディオ用ピンケーブル



接続と設定について

オンキヨー製 CD プレーヤー、チューナー、ネットワークオーディオプレーヤー、RI ドックをお持ちの場合、それらに RI 端子が装備されていれば、本機との接続で電源オンや入力切り換えが連動したり、本機のリモコンでの集中コントロール操作が可能になります。(RI 機能)
これらの連動操作を可能にするには、RI 端子付きの機器と本機とを RI ケーブルおよびオーディオ用ピンケーブルで接続します。接続は次の表を参照して行ってください。

接続する機器	接続する端子
CD プレーヤー	LINE IN 1
チューナー	LINE IN 2
ネットワークオーディオプレーヤー / RI ドック	LINE IN 3

RI 機能について

RI 機能で、以下のシステム機能を利用できます。

- 製品によっては、接続をしても一部の機能が動かないことがあります

■ オートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI ケーブルで接続されている機器の電源が入ると、自動的に本機の電源がオンになります。

■ ダイレクトチェンジ

RI 接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■ システムオフ

本機の電源を切ると、RI ケーブルで接続されている機器の電源が自動的にオフになります。

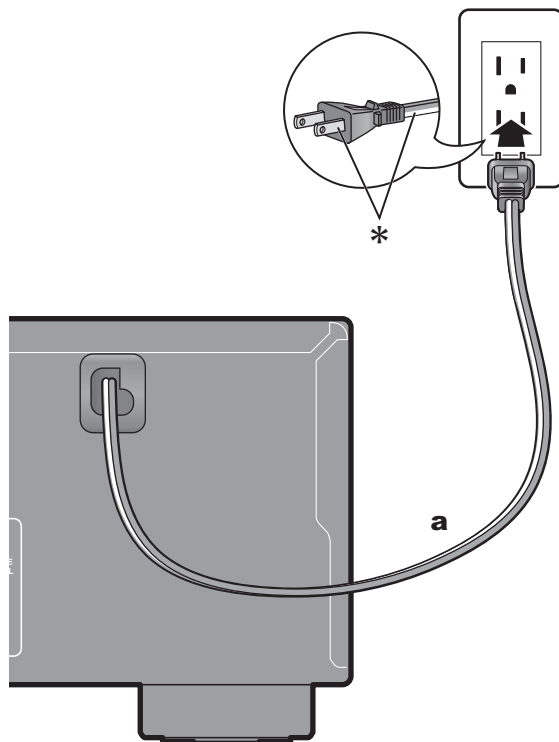
■ リモコン操作

RI ケーブルで接続した機器を、本機のリモコンで集中コントロールすることができます。機器を操作するボタンと操作方法については、「リモコン」-「他機器を操作する」(→p8) をご参照ください。

- 本機の RI 機能は、オンキヨー製 CD プレーヤー、チューナー、ネットワークオーディオプレーヤー、RI ドックにのみ対応しています。MD レコーダーなど他の機器では、適切に動きません。詳細については RI 端子付き製品の取扱説明書をご確認ください。

電源コードを接続する

a 電源コード

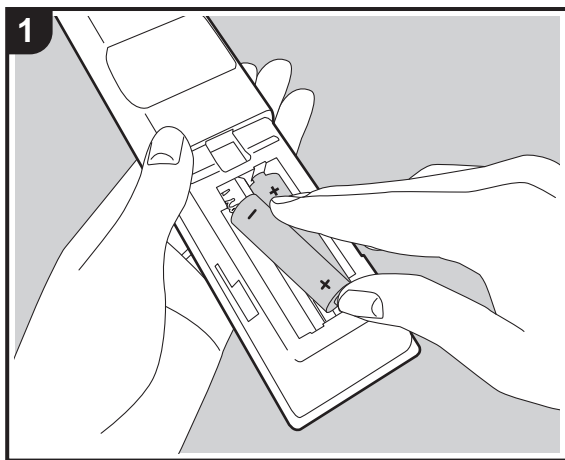


電源コードはすべての接続が完了してから接続してください。

- 音質向上のため、電源の極性を合わせます。電源プラグの目印線(白線)がある側(*)をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません

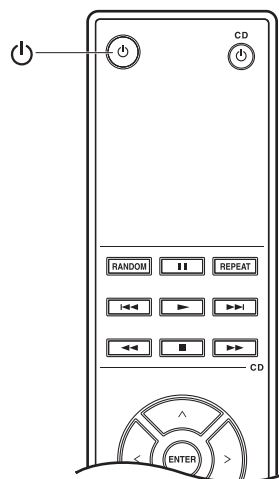
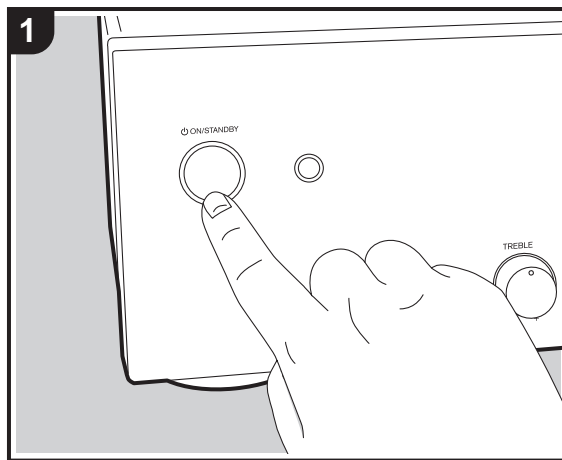
設定する

リモコンの準備



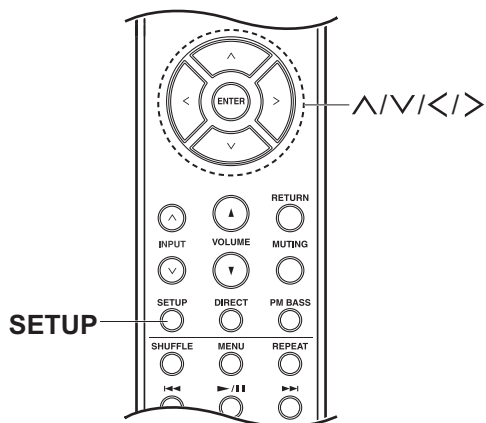
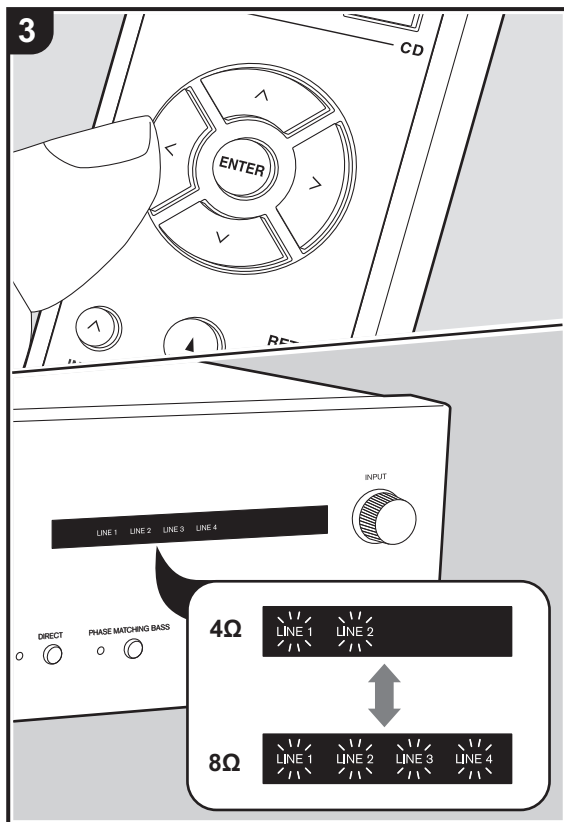
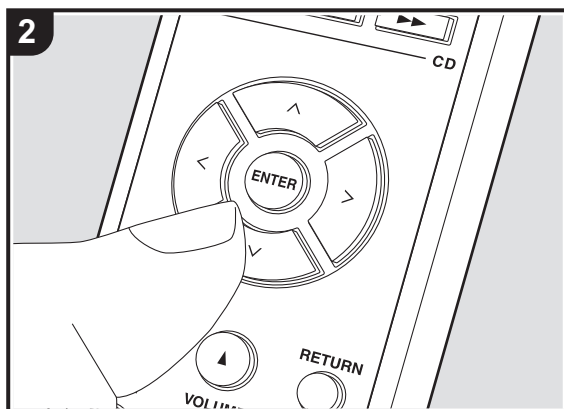
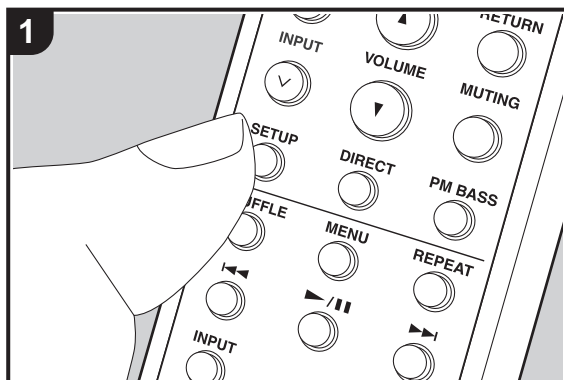
乾電池を入れるときは、極性を合わせて入れてください。

本機の電源を入れる



本機の $\text{\textcircled{P}}$ ON/STANDBY ボタンまたはリモコンの $\text{\textcircled{P}}$ ボタンを押します。

スピーカーインピーダンス設定



接続したスピーカーによっては、本機のスピーカーインピーダンス設定の変更が必要です。スピーカーの接続方法の項(→p9)をご参照のうえ、変更が必要な場合は、以下の操作を行ってください。

1. リモコンの **SETUP** ボタンを押します。
2. リモコンの **^/V** ボタンを繰り返し押し、本機の入力ソースインジケータの「LINE 1」や「LINE 2」など、いくつかのインジケータが点滅する状態にします。

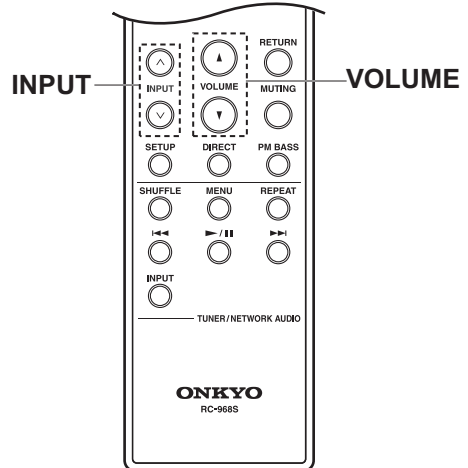
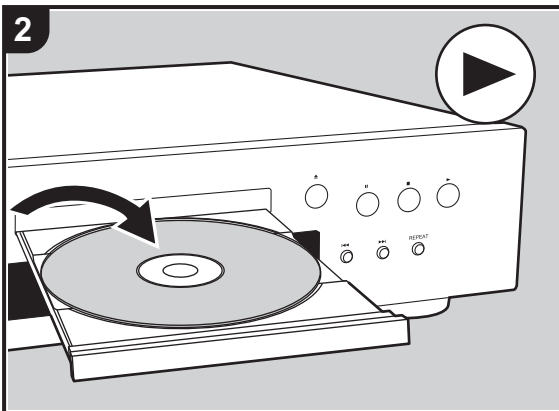


(点滅)

- インジケータが点滅し、現在の設定値を表示します。
3. リモコンの **</>** ボタンを押して、設定値を切り換えます。
 - 4Ω：「LINE 1」と「LINE 2」のインジケータが点滅している状態
 - 8Ω (初期値)：「LINE 1」と「LINE 2」、「LINE 3」、「LINE 4」のインジケータが点滅している状態
 4. 設定を終了するときには、リモコンの **SETUP** ボタンを押します。
 - 無操作で 5 秒間経過すると、設定モードが終了します。

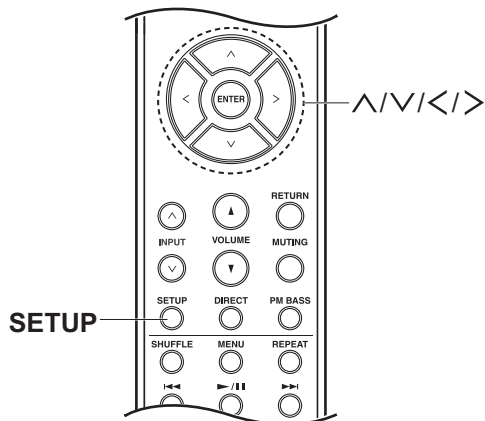
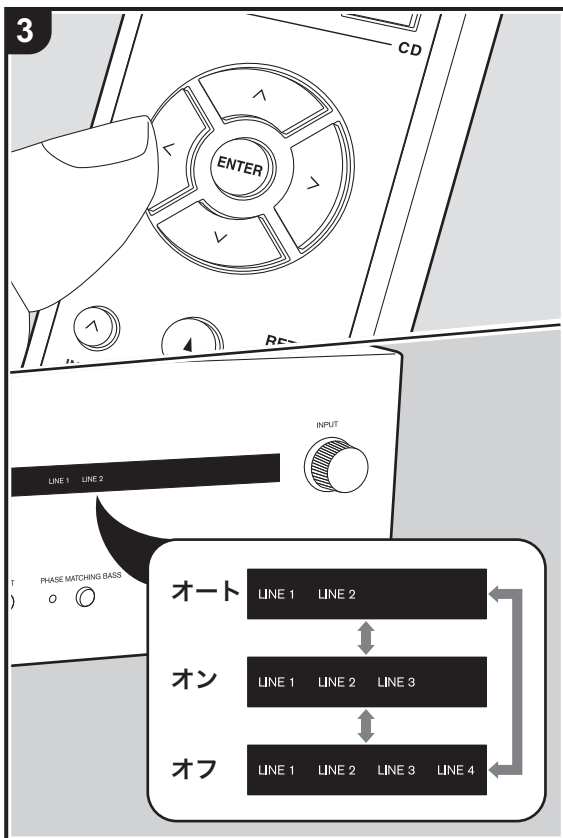
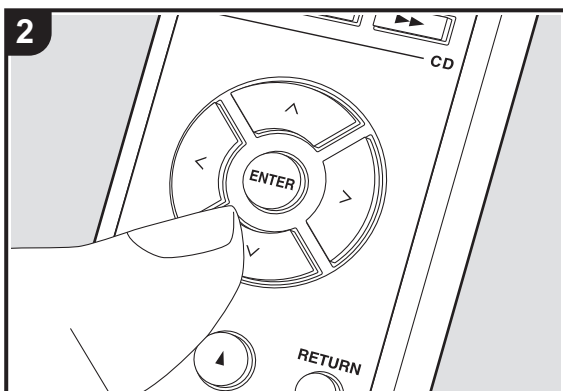
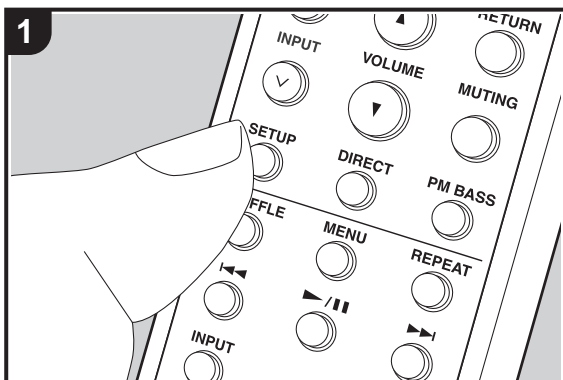
再生する

入力切替と音量調節



- 本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。
1. リモコンの INPUT \wedge / \vee ボタンを押して、再生機器を接続した端子名と同じ名称の入力に切り換えます。
例えば、LINE IN 1 端子に接続した機器を再生する場合は、LINE 1 に切り換えます。
本体で操作する場合は、INPUT ダイヤルで入力を切り換えます。
• 選択した入力ソースのインジケーターが点灯します。
 2. 接続した機器を再生します。
 3. リモコンの VOLUME ボタンまたは本体のボリュームつまみで音量を調節します。

サブウーファアの出力設定



本機ではサブウーファアの出力モードを「オート」(初期値)、「オン」、「オフ」の3パターンから選ぶことができます。

- オート : DIRECT 機能 (→p17) がオンのときは、サブウーファアの信号は出力されません。
- オン : 常にサブウーファアの信号が出力されます。
- オフ : サブウーファアの信号出力を停止して、製品内部での音質への影響を抑えることができます。サブウーファアを使用しない場合は、オフに設定することをお勧めします。

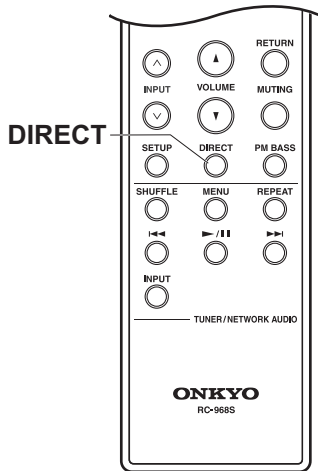
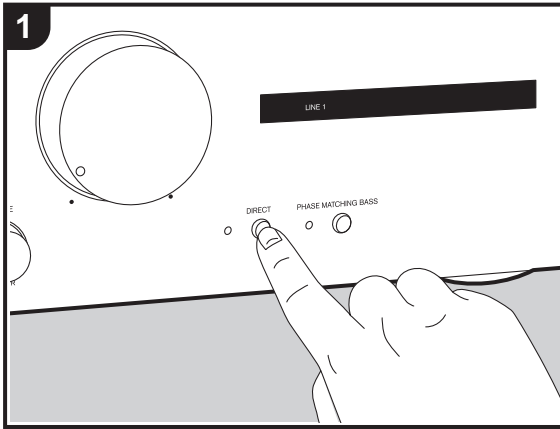
- ヘッドホンを接続している場合は、設定にかかわらずサブウーファアの信号は出力されません。
- リモコンの SETUP ボタンを押します。
 - リモコンの ^/v ボタンを繰り返し押し、本機の入力ソースインジケータの「LINE 1」や「LINE 2」など、いくつかのインジケータが点灯する状態にします。

LINE 1 LINE 2

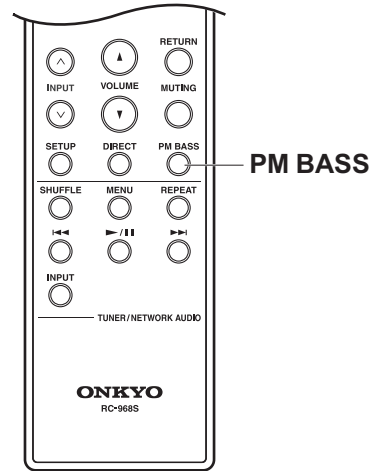
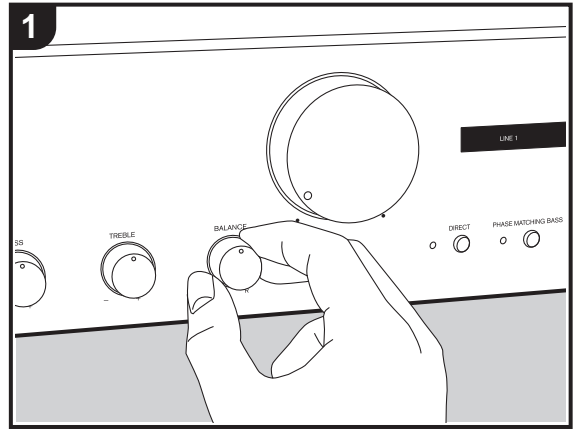
(点灯)

- インジケータが点灯し、現在の設定値を表示します。
- リモコンの </> ボタンを押して、設定値を切り換えます。
 - オート (初期値) : 「LINE 1」と「LINE 2」のインジケータが点灯している状態
 - オン : 「LINE 1」と「LINE 2」、「LINE 3」のインジケータが点灯している状態
 - オフ : 「LINE 1」と「LINE 2」、「LINE 3」、「LINE 4」のインジケータが点灯している状態
 - 設定を終了するときは、リモコンの SETUP ボタンを押します。
 - 無操作で 5 秒間経過すると、設定モードが終了します。

DIRECT 機能を使う



音質とバランスを調節する



DIRECT 機能をオン (初期値) にすると、低音や高音を調節するトーンコントロール回路をバイパスし、音質に有利な最短経路となります。

- DIRECT 機能がオンのときは、PHASE MATCHING BASS/BASS/TREBLE 調節はできません。

1. 本体またはリモコンの DIRECT ボタンを押して、オン/オフを切り換えます。オンのときは、DIRECT インジケータが点灯します。

PHASE MATCHING BASS

PHASE MATCHING BASS 機能をオンにすると、音量の大小にかかわらず、力強く滑らかな低音域再生を持続しながら、クリアな中音域を効果的に保持し、ボーカルやストリングスを際立たせます (初期値は「オフ」)。

- DIRECT 機能がオン (初期値) のときは設定できません。DIRECT ボタンを押して、DIRECT インジケータが消灯したあとで操作してください。なお、DIRECT 機能がオフになると、PHASE MATCHING BASS は前回の設定値に戻ります。

1. 本体の PHASE MATCHING BASS ボタンまたはリモコンの PM BASS ボタンを押して、オン/オフを切り換えます。オンのときは、PHASE MATCHING BASS インジケータが点灯します。

BASS (本体操作のみ)

- DIRECT 機能がオン (初期値) のときは設定できません。DIRECT ボタンを押して、DIRECT インジケータが消灯したあとで操作してください。

1. 本体の BASS +/- つまみを回して低音を強調したり、弱めたりします。

TREBLE (本体操作のみ)

- DIRECT 機能がオン (初期値) のときは設定できません。DIRECT ボタンを押して、DIRECT インジケータが消灯したあとで操作してください。

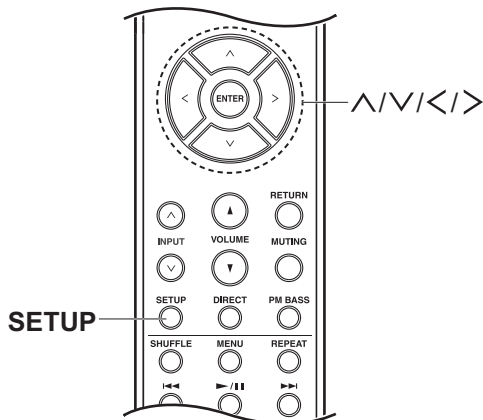
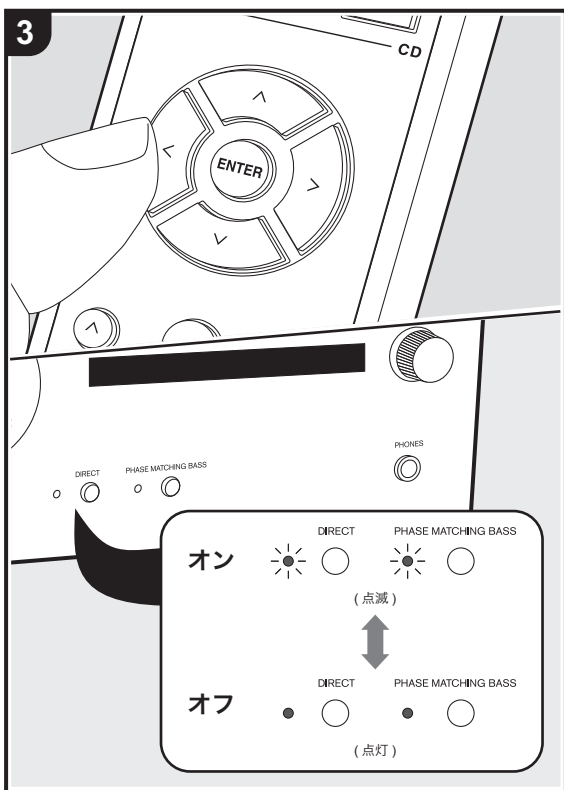
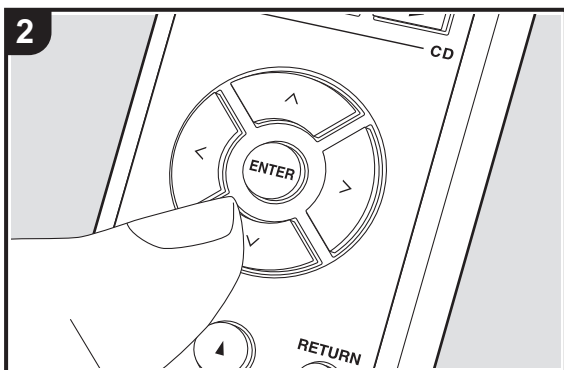
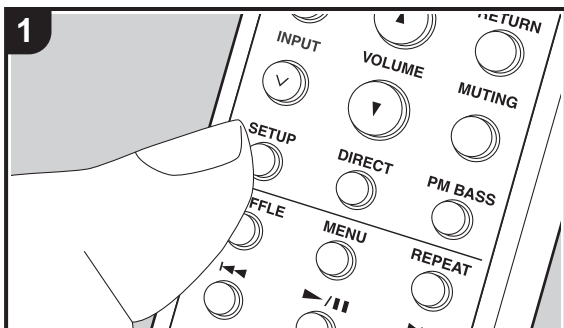
1. 本体の TREBLE +/- つまみを回して高音を強調したり、弱めたりします。

BALANCE (本体操作のみ)

1. 本体の BALANCE L/R つまみを回して左右のスピーカーから出力される音のバランスを調節します。

便利な機能

自動スタンバイを設定する



自動スタンバイがオンに設定されているときは (初期値はオフ)、音声入力がない状態で本機を 20 分間操作しないと、自動的にスタンバイ状態に移行します。

1. リモコンの SETUP ボタンを押します。
2. リモコンの $\wedge/\vee/\langle/\rangle$ ボタンを繰り返し押し、「DIRECT」と「PHASE MATCHING BASS」のインジケータが点滅または点灯している状態にします。



- インジケータが点滅または点灯し、現在の設定値を表示します。
3. リモコンの \langle/\rangle ボタンを押して、自動スタンバイのオン/オフを切り換えます。
 - オン: 「DIRECT」と「PHASE MATCHING BASS」のインジケータが点滅している状態
 - オフ (初期値): 「DIRECT」と「PHASE MATCHING BASS」のインジケータが点灯している状態
 4. 設定を終了するときは、リモコンの SETUP ボタンを押します。
 - 無操作で 5 秒間経過すると、設定モードが終了します。
 - スタンバイ状態に移行する 60 秒前に、選択中の入力ソースのインジケータが点滅します。
 - 接続された機器によってはノイズが大きいなどの理由により、自動スタンバイ機能が動作しないことがあります。

困ったときは

はじめにお読みください

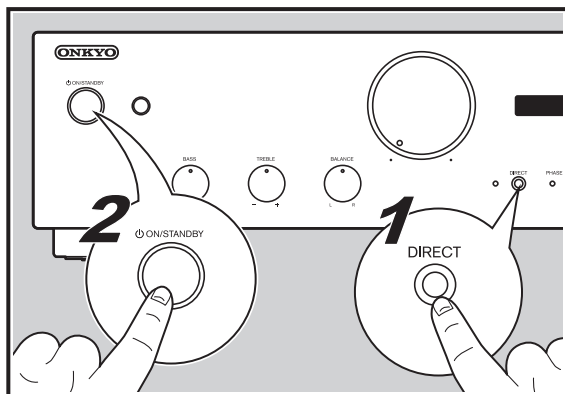
トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。

- 本機はマイクロコンピュータにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。
- 製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害(CD レンタル料等)については補償対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認のうえ、録音を行ってください。

■ 本機のリセット (設定内容は初期化されます)

本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。リセットを行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、以下の操作をする前に、設定内容をメモなどに記録してください。

1. 電源を入れた状態で、本機の DIRECT ボタンを押しながら、ON/STANDBY ボタンを押します。



電源

■ 電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

■ 本機の電源が切れる場合

- 自動スタンバイ (→p19) が作動すると、自動でスタンバイ状態になります。
- スピーカーケーブルがショートし保護回路機能が作動した可能性があります。スピーカーケーブルの芯線が別のスピーカーケーブルの芯線や後面パネルと接触していないかを確認し、再度電源を入れてください。本機の電源が入らない場合は、すぐに電源プラグをコンセントから

抜き、販売店にお問い合わせください。

- 本機の温度が異常に上昇して保護回路機能が作動した可能性があります。この場合、電源を入れ直してもまた電源が切れる状態がくり返されます。本機の周りに十分な換気スペースを確保して、本機の温度が下がるまでしばらく待ってから電源を入れ直してください。

警告: 煙が出ている、変なおいがする、異様な音が出るなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、販売店または修理窓口にご連絡ください。

音声

- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子とが正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- MUTING が有効になっている場合は、リモコンの MUTING ボタンを押して消音を解除してください。選択中の入力ソースインジケータが点滅中は MUTING が有効になっています。
- ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているときは、スピーカーおよびサブウーファーから音は出ません。

■ 音声性能

- 10～30分間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。
- テレビなど磁気の強い場所では、音質に影響を受ける場合があります。本機をそのような機器から離してみてください。
- 通話中の携帯電話など、強度の高い電波を発する機器が近くにある場合、ノイズを出力する場合があります。
- 頑丈な棚やラックに設置してください。本機の重量が均等に4つのインシュレーターに分散されるように配置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。

■ 接続した再生機器の音が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。

■ 特定のスピーカーから音が出ない

- スピーカーケーブルの+/-は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。
- スピーカーケーブルがショートしていないことを確認してください。
- スピーカーの接続が正しく行われているか、ご確認ください。(→p9)

■ ノイズが聞こえる

- コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーケーブルなどを束ねると音質が悪化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

■ ヘッドホンの音声途切れるまたは、出力されない

- 接続部が汚れている可能性があります。プラグのクリーニングを行ってください。クリーニングの方法については、お使いのヘッドホンの取扱説明書をご覧ください。また、ヘッドホンケーブルが壊れたり、傷ついたりしていないか確認してください。

RI 機能

■ RI 機能が正しく機能しない

- RI REMOTE CONTROL 端子が正しく接続されているか確認してください。
- RI REMOTE CONTROL 端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。(→p11)

リモコン

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置したときや、扉が閉じているときにはリモコンが正常に機能しないことがあります。

その他

■ 本体から異音聞こえる

- 本機と同系統のコンセントに他の機器を接続している場合、その機器の影響を受けて異音が発生する場合があります。他の機器の電源プラグをコンセントから抜いて症状が改善される場合は、本機とその機器を別系統のコンセントに接続してください。

主な仕様

アンプ (音声) 部

実用最大出力 (JEITA)
 2 ch × 75 W (4Ω、1 kHz、全高調波歪率 10% 以下、
 2ch 駆動時)
 定格出力 (JEITA)
 2 ch × 50 W (4Ω、20 Hz-20 kHz、全高調波歪率 0.9%
 以下、2ch 駆動時)
 ダイナミックパワー (＊)
 (＊) IEC60268-Short-term maximum output power
 220 W (3 Ω、フロント)
 190 W (4 Ω、フロント)
 110 W (8 Ω、フロント)
 入力感度 / インピーダンス
 200 mV/47 kΩ (LINE (RCA))
 4 mV/47 kΩ (PHONO MM)
 RCA 定格出力電圧 / インピーダンス
 0.2 V/2.3 kΩ (LINE OUT)
 1 V/500 Ω (SUBWOOFER PRE OUT)
 RIAA イコライザ偏差
 ±0.5 dB (MM 20 Hz ~ 20 kHz)
 PHONO 最大許容入力電圧
 70 mV (MM 1 kHz、0.5%)
 周波数特性
 10 Hz ~ 100 kHz/+1 dB、-3 dB (DIRECT)
 トーンコントロール特性
 ±10 dB、100 Hz (BASS)
 ±10 dB、10 kHz (TREBLE)
 SN 比 (JEITA)
 103 dB (IHF-A、LINE IN、SP OUT)
 78 dB (IHF-A、PHONO IN、SP OUT)
 スピーカー適応インピーダンス
 4 Ω ~ 16 Ω
 ヘッドホン適応インピーダンス
 8 Ω ~ 600 Ω
 ヘッドホン周波数特性
 30 Hz ~ 100 kHz

総合

電源・電圧
 AC 100 V、50/60 Hz
 消費電力
 100 W
 0.1 W (スタンバイ時)
 最大外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行)
 435 mm × 129 mm × 330 mm
 質量
 7.0 kg

音声入力

アナログ
 PHONO、LINE1、LINE2、LINE3、LINE4

音声出力

アナログ
 LINE OUT L/R
 SUBWOOFER PRE OUT
 スピーカー
 SPEAKERS : L/R
 (バナナプラグ対応)
 ヘッドホン
 PHONES (φ6.3 mm)

その他

RI: 1

© Copyright 2022 Onkyo Technology, K.K. All rights reserved.

SN 29403408A

O2207-1



* 2 9 4 0 3 4 0 8 A *